

# 第11回 福祉教育研修講座(第Ⅲ報) 高大連携におけるソーシャルワーク機能と福祉教育 ～子どもの貧困・疎外にいかに対応するか～

社団法人日本社会福祉教育学校連盟（「学校連盟」）主催の「福祉教育研修講座」は、社団法人安田生命社会事業団（現「明治安田こころの健康財団」）主催の「ソーシャルワーク実践教育研修講座」として第1回が開催されてから第11回目を迎えることとなりました。正月開催を恒例とし、全国各地から福祉教育にたずさわる高校と大学等の教員が一堂に会し、各回のメインテーマに係る研修を受講し、日々の授業等の改善に資すると共に、両者が交流を深める機会ともなっております。一昨年度以来、全国福祉高等学校長会が共催団体となり、今回も学校連盟福祉教育委員会を中心に、高大連携によって企画してまいりました。

今回は、メインテーマとして「高大連携におけるソーシャルワーク機能と福祉教育～子どもの貧困・疎外にいかに対応するか」を取りあげることといたしました。

昨今の経済事情等を背景に、子どもたちを取り巻く環境が悪化し、「給食費や学費等が払えない」「大学等への進学がままならない」といった問題、未就学・長欠・不十分な教育・外国籍・虐待・いじめ、子どもの貧困・疎外に関する問題などが顕在化しています。子どもたちの格差・不平等は、体力や健康、学力等の問題につながり、結果的には、得られる学歴、仕事、収入の格差や結婚なども関連していくこととなります。このことについて、われわれの多くは、無関心のうちに過ごしてはいないでしょうか。このような問題に対して、親、家庭、学校、教師など、地域社会における人々のつながりを、スクールソーシャルワークをはじめとするソーシャルワーク、地域コーディネート等とおして、どう再構築していくべきなのか、さらには、学校などにおいて福祉を学ぶ意義はどこにあるのか考えたいと思います。

1日目は、まず、上記メインテーマに係る講演を予定しています。これに引き続き、実践報告をしていただき、ディスカッションをしたいと考えています。また、1日目には、これらを踏まえての情報交流会を予定しております。2日目午前中は、毎回好評の模擬授業を、高校での「社会福祉基礎」を想定してのものと、大学等での「相談援助演習（社会福祉援助技術演習）」を想定してのもので実施予定です。2日目午後には、「福祉教育の本質と方法」という視点から、パネルディスカッションを予定しています。

社会福祉教育に関心をお持ちの方々に、心より参加を呼びかけます。

社団法人日本社会福祉教育学校連盟会長 大橋 謙策  
福祉教育委員会委員長 野口 定久

期 間：2010（平成22）年 1月 9日（土）～10日（日）

会 場：法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎 〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-11

主 催：社団法人日本社会福祉教育学校連盟 [担当：福祉教育委員会]

共 催：全国福祉高等学校長会

後 援：（予定）文部科学省、日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本地域福祉学会、社会事業史学会、社団法人日本社会福祉士養成校協会、日本福祉教育・ボランティア学習学会、ソーシャルケアサービス従事者研究協議会、日本社会福祉教育学会、全国社会福祉協議会

対 象：学校連盟会員校教員、高校教員、大学院生 ※福祉系大学等及び福祉系高校の非常勤講師も参加が可能ですので関係者への周知をお願いします。

定 員：200名

参加受付期間：11月25日（水）～12月25日（金） \*満員になり次第締め切ります。

参加費： 講座参加費： 8,000円（大学院生4,000円）

交流会費： 3,000円

2日目昼食： 1,000円

（2日目は、日曜で時間も限られているため、お弁当の必要な方はお申込みください。）

宿泊費：各自お手配願います

プログラム

第1日目（1月9日（土））

13:00～13:30 受付(法政大学市ヶ谷キャンパス) (外濠校舎-S307教室前)

13:30～13:45 全体会開会 (外濠校舎-S-307教室)

挨拶 社団法人日本社会福祉教育学校連盟会長・・・大橋謙策  
全国福祉高等学校長会・・・・・・・・・・・・・・高橋福太郎氏  
本研修事業の趣旨と概要 福祉教育委員会委員長・・・野口定久  
オリエンテーション(事務局)

13:45～15:15 記念講演 「子どもの貧困と疎外の現状」  
講師 阿部彩氏(国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部第2室長)

現代日本における貧困とは何か。日本では、長年、子どもの貧困について語られることがなかった。しかし、その間、確実に子どもの貧困は深刻化している。子どもの貧困の定義、測定、そして現状をデータを基に説明し、子ども期の貧困が及ぼす影響とそれらに対する政策について、国際比較を交えながら議論する。

15:15～15:30 休憩

15:30～18:00 実践報告とディスカッション (外濠校舎-S307教室)

テーマ 「子どもの貧困に立ち向かう地域コーディネーターとスクールソーシャルワーク」  
コーディネーター 田村真広委員(日本社会事業大学)

我が国の相対的貧困率は15.7%で、一人親世帯の場合は54.3%に及びます(2007年調査)。高校を中退したり不登校だったりした青年は困難な状況に置かれており、社会的自立のための幅広い支援を求めています。釧路市ではNPOと連携し子どもの居場所づくりを通じた母子生活支援の実践が展開されています。大阪府では地域支援ネットワークづくりを含めたミクロ・メゾ・マクロレベルでのスクールソーシャルワーク実践が蓄積されています。実践報告をもとに、貧困の連鎖を断ち切る方途を探る機会とします。

実践報告者 櫛部武俊氏(釧路市福祉部生活福祉事務所生活支援主幹)

【指導ではなく、支援を】、【保護受給世帯も社会資源】、【多様な「働き方」を認める】・・・釧路市が取り組む、生活保護受給者自立支援は、生活保護のこれまでの常識を覆すチャレンジ。コミュニティーハウス冬月荘を舞台にNPOと協同で取り組んでいる「中学三年生の高校行こう会」もその一つ。社会的居場所作り、承認、支援の双方向性、公助とインフォーマル・・・など「子ども支援」の中から福祉事務所に教えられてきたことの報告です。

山野則子氏(大阪府立大学人間社会学部准教授)  
加藤拓氏(大阪府茨木市教育委員会学校人権教育課)

18:15～20:00 情報交流会(ボアソナードタワー25F スタッフクラブ)・・・予定

第2日目 (1月10日 (日))

9:30~11:30 模擬授業

高等学校教員による授業と教授法の研究

- 1 社会福祉基礎 ①(外濠校舎-S307教室) 岡多枝子委員 (日本福祉大学)  
講師 横山貴弘氏 昭和学園高等学校 (大分県)

「社会福祉の法制度と実施体制について」

普段生徒(特に高校生)にとって社会福祉関係法は縁遠く、理解に苦しむ分野である。しかし社会福祉関係法を理解することで、日本に必要な福祉や、身の回りの福祉を知ることが出来ると言える。国家試験受験を見据えながら、法制度実施とその背景の理解を具体的な例示をしながら授業を展開していきたい。

- 2 社会福祉基礎 ②(外濠校舎-S306教室) 保住芳美委員 (川崎医療福祉大学)  
講師 八木恵美氏 静岡女子高等学校

「国際生活機能分類(ICF)を高校生にどのように教えていくか」

介護福祉士養成の新カリキュラムにおいて、国際生活機能分類(ICF)は重要な位置を占めており、「社会福祉基礎」のテキストの中でもこの言葉がかなり早い段階から登場します。そこで、福祉を勉強し始めたばかりの高校1年生に国際生活機能分類(ICF)を教えるにあたって、どのようにしたら良いかを県内の福祉科設置校の先生方と検討しました。それを基に具体的にどのように授業を進めていくかについて発表させていただきたいと思います。

大学教員による授業と教授法の研究

- 3 相談援助演習(社会福祉援助技術演習)  
(外濠校舎-S407教室) 山本美香委員 (東洋大学)  
講師 山辺朗子氏 龍谷大学

相談援助演習は、講義で学ぶソーシャルワークの理論や知識を実践に応用し学ぶ、いちばん最初の段階に位置する授業であるということが出来ます。そのために学生に実践活動のイメージをもたせ、さらに実践と理論の対応関係を理解させることが重要となります。また、ソーシャルワークの主要な構成要素たるスキルの理解と習得の第一歩となる授業でもあります。今回は以上のことを意識した、演習授業のあり方を皆さまとともに考えていきたいと思っています。

11:30~13:00 昼食

11:45~13:00 ランチセッション(外濠校舎-S306教室)・・・教室は変更される場合がございます。  
矢幅清司氏(文部科学省)の高校における福祉教育の動向等に関する情報提供・情報交換  
その他

13:00～15:30 パネルディスカッション（外濠校舎-S307教室）

テーマ「福祉教育による地域づくりと人づくり」  
コーディネーター 野口定久委員長（日本福祉大学）  
パネリスト 佐藤 陽 氏（十文字学園女子大学）

これまで学校内外を中心に福祉教育推進として体験学習が促進されてきた。地域の希薄化が問われる今日、地域づくりが求められ、地域を基盤とする福祉教育推進が重要になってきている。地域福祉活動と福祉教育実践をつなぐ学びと実践の活動から、地域づくりとともに人づくりが生み出されている。共生社会の実現に向けた地域を基盤とする福祉教育推進について話させていただく。

石川 薫 氏（埼玉県立誠和福祉高等学校）

「地域福祉に貢献できる人材の育成を目指して」

本校は、埼玉県の高校再編整備計画により、平成20年4月に新しく開校した県内唯一の福祉科と福祉に関する総合学科の併設校である。福祉科では、介護福祉士国家試験受験資格取得を目指す「介護福祉士コース」と福祉系大学や専門学校への進学を目指す「福祉進学コース」に分かれる。

本校は、体験活動を中心とした様々な取組を行っているが、特に県教育委員会の「県立学校教育活動総合推進事業」では、地域福祉に貢献できる人材の育成を目指して、地域と連携した活動を展開している。この発表を中心に行いながら、高等学校における福祉教育について考えていきたい。

池田延己氏（函館大妻高等学校）

「福祉の大妻」を目指して

昭和63年に開設した本校の福祉科は、介護福祉士国家試験における90%を超える合格率と、社会福祉施設への人材養成においても地域の中核としてがんばっている。実業高校である本校は、机上の学問にとどまらず、知識の応用能力、実践的能力を兼備したスペシャリストを育成するということを常に念頭においている。

また、本校は4科を併設しているが、セクショナリズムに陥ることなく、互いの技術を持って補完しあい協働することで、学校全体として「福祉の大妻」となることを目指し、“小粒だが個性がきらりと光る学校”になりたいと思っています。

今回は、本校の取り組みを通して地域福祉との関わりが発表できればと考えております。

※ このご案内は、12月18日現在のものです。内容や講師等は一部変更する場合がございますので、その旨ご了承ください。

※ お申し込み方法、参加費振り込みの方法等については、本連盟ホームページ (<http://www.jassw.jp>) にて公開しております。ご参照ください。

また、ご不明の点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

社団法人日本社会福祉教育学校連盟事務局

〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館402号

TEL: 03-5366-5964 FAX: 03-5366-5965

E-mail: [grenmei@jassw.jp](mailto:grenmei@jassw.jp)